

守口市生涯学習情報センター改修基本構想

平成 30（2018）年 9 月

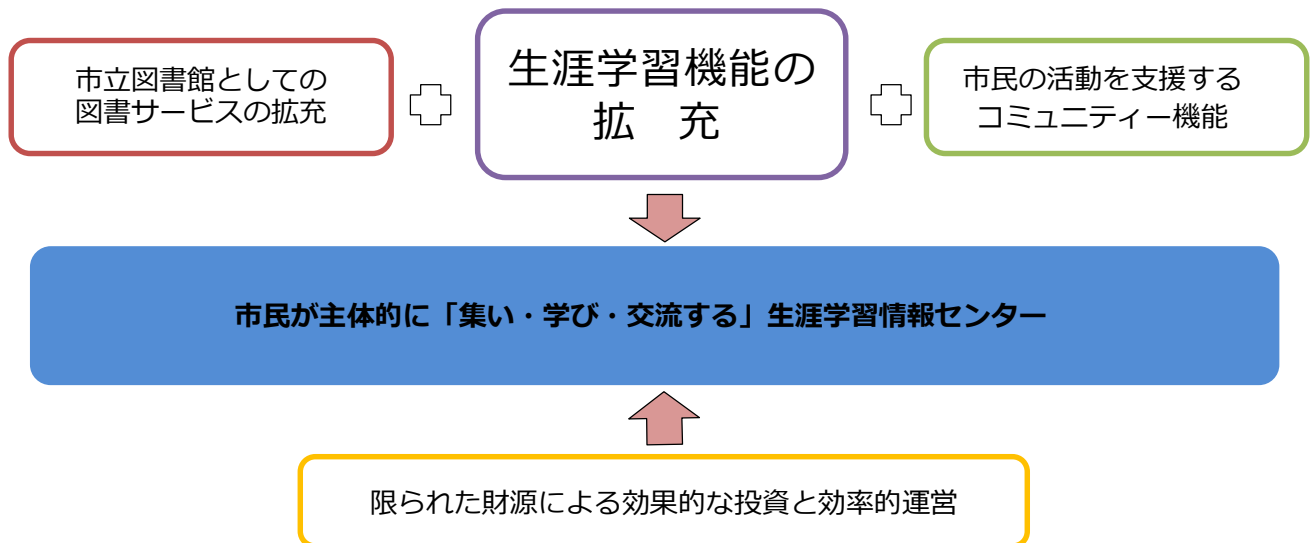
守口市

I. 改修基本構想の概要	3
■ 1 改修基本理念	
■ 2 基本理念実現に向けた改修コンセプト	
II. 改修にあたっての課題整理	5
■ 1 守口市の概要	
■ 2 関連計画の概要	
■ 3 生涯学習情報センターの現状と課題	
■ 4 図書サービスの現状と課題	
■ 5 前提条件をふまえた生涯学習情報センターのあり方	
■ 6 リニューアル後の収蔵可能冊数	

I. 改修基本構想の概要

■ 1 改修基本理念

今般の生涯学習情報センターの改修にあたっては、本市の中長期的な財政力を見通しつつ、受益者負担が可能なサービスの導入に加え、当該施設の収支（経営）改善も視野に限られた財源の「選択と集中」により、現「生涯学習情報センター」を、法律上の図書館を中核に据えた新たな生涯学習・コミュニティー活動拠点として再生・活性化させることを目指す。



1) 図書サービスの拡充

市立図書館の開設にあたっては、蔵書数の拡充を図ることとし、質の確保にも努め、利用価値の高い図書館を目指す。

また、快適でくつろげるスペースや、子育て世代も気兼ねなく利用できるスペースなど、これまでのイメージにとらわれない図書環境の構築や、図書管理システムによる効率的な運営を目指す。

2) 市民の活動を支援するコミュニティー機能

生涯学習情報センターのリニューアルにあたっては、これまでの図書館のイメージにとらわれない活用方法の提供等により、市民の活動を支援し、人のふれあいや地域社会とのつながりを深めることを目指す。

3) 生涯学習機能の拡充

上記、1)の図書サービスの拡充と2)の市民の活動を支援するコミュニティー機能により、市民一人ひとりが自由に学習の方法や活動の場を選択できる幅を増やし、自分に最適な手法で生涯にわたって学習できる場所を提供する。

また、当該施設が本市における生涯学習の拠点として従来から担ってきた役割を継承しながら、現在のニーズにあった機能を付加し、市民が主体的に集い・学び・交流することができる、生涯学習情報センターとなることを目指す。

■ 2 基本理念実現に向けた改修コンセプト

改修基本理念の実現に向けて、生涯学習情報センターの改修コンセプトとして以下8項目を策定する。

1.蔵書数の拡充等による図書サービスの向上

市立図書館として、保有する蔵書数の拡充については、目標を市民一人あたりの図書提供冊数を少なくとも2冊とし、図書管理システムによる効率的な運営を行う。

2.郷土資料の保管・展示

古文書などの郷土資料の保管・展示を行い、市民の方々が広く郷土守口の文化・歴史を学ぶとともに、市外から訪れる人々にも地域の歴史や文化に触れることができる市の魅力の発信の場とする。

3.子育て世代の利用にも配慮した図書空間の創出

乳幼児専用スペースの設置や、保護者が傍らで読書しながら、こどもを見守れるスペースや赤ちゃんの駅を設置することにより、子育て世代にも利用しやすい図書空間を創出する。

4.気軽に利用できるスペースの充実

気軽に立ち寄れる市民交流スペースや生涯学習機能も兼ね備え、市民が自由に利用しやすい居場所づくりを行う。

5.学力向上に向けた子ども達の学習習慣形成への支援

小中高等学校等の児童生徒を始めとして、放課後、休日、長期休業中等における子ども達自らの自学自習活動が可能となるような場の提供を行う。

6.ユニバーサルデザインへの配慮

目的の場所まで段差なく移動できることや、わかりやすいサイン計画を行うなど、あらゆる人々が利用しやすい施設とする。

7.新たな利用者の確保

音楽やダンス、演劇などの活動ができるスペースなど、若者のニーズにあった場所の確保を行う。

8.徹底した経営効率と中長期的な収支見通し

市立図書館は法律上、無料利用が原則であるが、それ故、税投入にふさわしい運営やサービスの拡充についての徹底した経営効率化と狭義の図書館機能以外の付随するサービスについては、適切な受益者負担の導入を図るほか、後年度負担の低廉化に留意した持続可能な施設運営を追求する。

Ⅱ．改修にあたっての課題整理

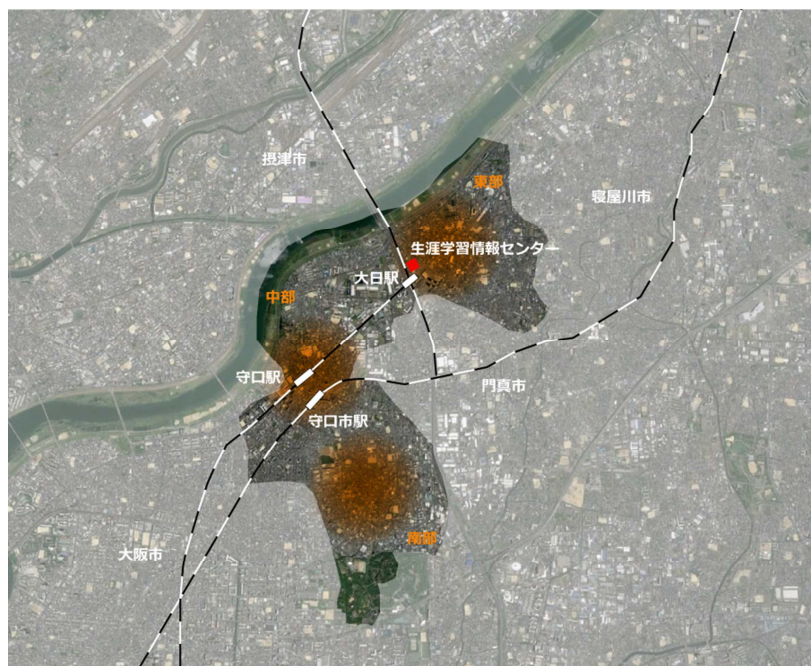
■ 1 守口市の概要

守口市は大阪市、門真市、寝屋川市と市域を接しており、北部には淀川を介して摂津市が隣接している。大阪メトロ（地下鉄）、京阪本線、大阪モノレールといった鉄道が通っており、国道 1 号線、大阪中央環状線、国道 163 号線といった幹線道路も整っていることから交通の利便性に優れている。

市域は大別して地下鉄、京阪の守口市駅を中心とした中部エリアとその南域にあたる南部エリア、地下鉄大日駅を中心とした東部エリアに大別される。市内は全域的に市街化が進んでおり、中部エリアでは百貨店や商店街があり生活に便利な施設が充実している。また東部エリアでは集客性の高いショッピングモールをはじめとした大型店舗が多く、市内外問わず多くの買い物客でにぎわっていることが特徴としてあげられる。

人口の動向としては昭和 46 年の 187,791 人をピークとして近年は減少傾向にあり、平成 28 年 10 月 1 日時点での人口が 144,055 人に対し、高齢者の割合が約 28%を占め、少子高齢化が進んでいる。その一方で「守口市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担額を定める条例の一部を改正する条例案」（平成 29 年 4 月 1 日施行）によって幼児教育・保育料の無償化政策を行うことなどで、積極的に子育て世代の定住の促進を図るなど、子育て世代にやさしいまちづくりにも力を入れている。

また、この間において守口市には図書館法上、正式に位置付けた市立図書館が存在しなかった。これは隣接する大阪府立中之島図書館が立地し、事実上、同図書館の利用により市民の読書ニーズ等を受け留めていたことや、他市をはるかにしのぐ密度で設置された旧公民館に図書室を配する、小規模分散型の図書室機能の充実を図ってきたことなどの歴史的経緯があつてのことではあるが、府立中央図書館が東大阪市内に移転して久しいことなど、守口市域における図書館機能をめぐる背景については大きく変化している。



■ 2 関連計画の概要

第5次守口市総合基本計画（平成23年3月）

「育つ・にぎわう・響きあう 人と心が集うまち 守口」を目指して、平成23年度から平成32年度までの10年間に於いて実施される守口市の将来都市像やまちづくりの基本的な目標と方向を示したものの。施策の大綱のひとつとして「学びとつながりを深め、豊かな心と生きる力が育つまち」がかかげられており、次代を担う子どもが心豊かでたくましく育つことができるような教育内容の充実と教育環境の整備を進めるとともに、家庭・学校・地域の連携を促進し子どもたちの成長を見守ることや、生涯学習の機会の充実と場所の提供を図り、歴史的・文化的資源を紹介することにより、人のふれあいや地域社会とのつながりを深め、心の豊かさを育み、生きがいを持てる環境づくりを進めるという方向性が示されている。

第2次守口市生涯学習推進計画（平成25年5月）

第5次守口市総合基本計画を上位計画とし、平成24年度から平成32年度までの9年間で市民の自立した生涯学習活動を支援していくため、生涯学習推進組織の充実を図り、本市の生涯学習社会の実現を目的とした計画。

生涯学習情報センターのあり方についても今後検討すべき課題のひとつとしてあげられている。

守口市子ども読書活動推進計画（平成23年5月）

子どもが読書の楽しさに気づくきっかけをつくり、子どもが自らすすんで本を読みたくなくなるような読書環境の整備を行うとともに、家庭・地域・学校等社会全体で総合的に支援する仕組みを構築することを目的とした計画。

（改訂版）もりぐち改革ビジョン（案）（平成29年2月）

財政基盤の安定化を図ることをもって、将来にわたって市として行うべき施策、市民サービスを実施できるよう、行財政の取組方針を示したものの。

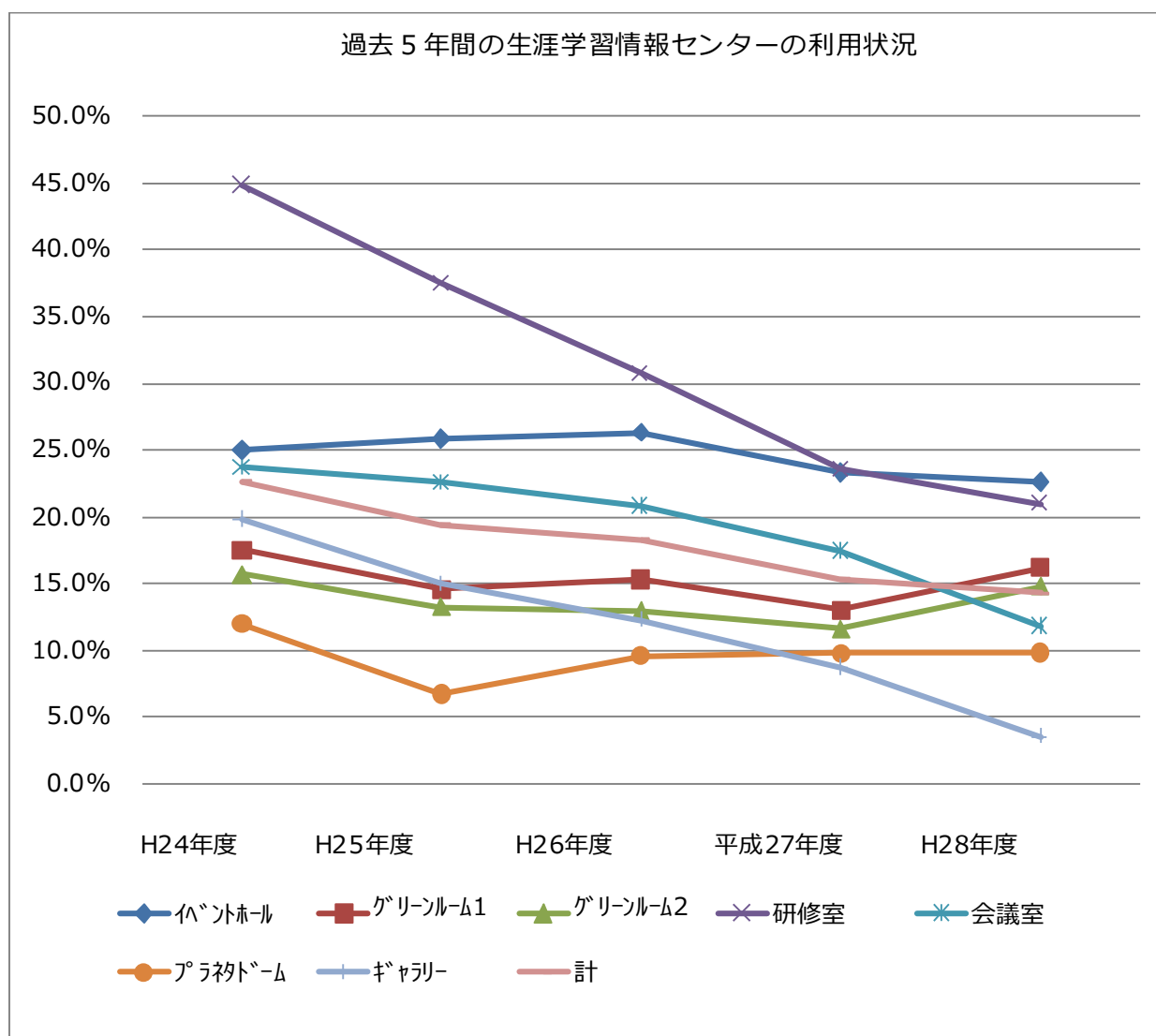
生涯学習情報センターについては、市立図書館としての位置づけや市民の利便性、収益性向上のための活用方策など、あり方の検討を行うとしている。

■3 生涯学習情報センターの現状と課題

1) 施設の老朽化等にもなう施設利用率の低下

守口市生涯学習情報センターは地下鉄大日駅の北東に位置する公共施設である。平成5年3月の竣工から現在まで約25年が経過しており、施設の老朽化等により、施設利用率は減少傾向にある。

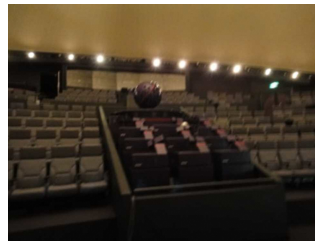
一方で、当該センターの国道一号線を挟んだ南側に竣工当時にはなかった大型ショッピングモールがオープンするなど、人の流れがこの間で大きく変化している。



2) 施設の現況と評価

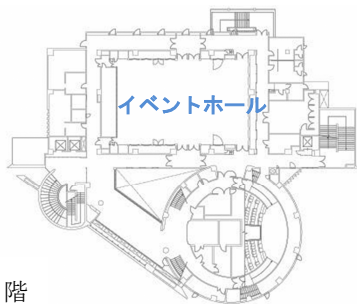
プラネタリウム

5階



5階 プラネタリウム

5階のプラネタリウムは築後約25年が経過しており、投影機などの設備の老朽化が進んでいる。現在では一般への公開は行われておらず、稼働率は低い。



4階



4階 イベントホール

4階のイベントホールは移動式客席や舞台設備を備えており、現在も各種講演会や地域のカラオケ大会などのイベントに活用されている。

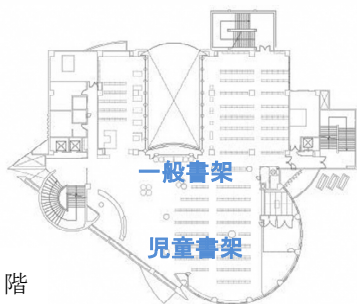


3階

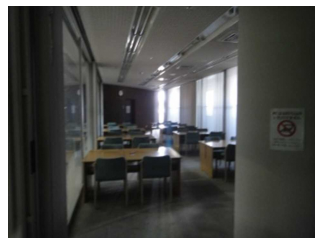


3階 会議室

3階の会議室は同時通訳機能が設置されており、竣工当時としては高性能な施設となっていたが、現在は会議室自体の利用率も低く、設備を有効に活用できていない。

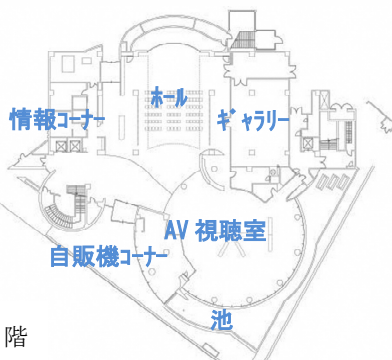


2階



3階 閲覧室

3階の閲覧室は図書フロアの上階にあるため、閲覧席の利用時には貸出手続きが必要となる。そのため手軽に本を持ち込んで利用できるといった状況にない。



1階



3階 閉架書庫

閉架書庫は固定式書棚となっており、ほぼ飽和状態であることから、蔵書冊数を増やすには2層式への変更等の対応が必要である。



2階 児童書架

2階児童書架は上足のカーペットコーナーで読み聞かせイベントなどにも活用されている。児童書架は一般書架と連続する配架計画のため、音が周りに伝わりやすく、利用には十分な配慮が必要である。



2階 一般書架

書架が整然と並んでおり、わかりやすい配架計画であるが、書架が高く視認性が悪くなっている。



2階 一般書架

静かで落ち着きのある場となっている。閲覧スペースの少なさや座席の老朽化がみられる。



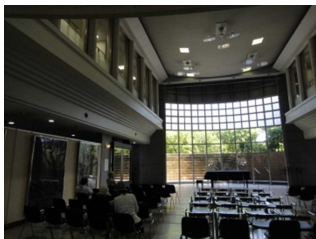
2階 一般書架

現在は蔵書管理をバーコードで行っているため、不正持出防止策として利用者はコインロッカーに手荷物を預ける必要がある。



2階 一般書架

たたみコーナーはくつろぎながら読書ができる空間である。三方を壁で囲まれていることのあり、他利用者がいると利用しにくい印象を与える。



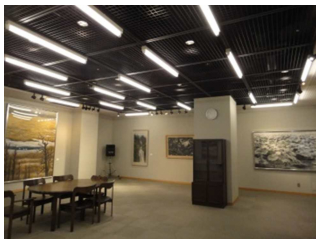
1階 ホール

吹抜けを利用したホールで、毎週末には音楽のコンサートが行われている。



1階 AV 視聴室

大通りに面した場所に位置し、明るく開放的な印象の空間であるが、AVを視聴することが、近年のニーズに合っていないことが考えられる。



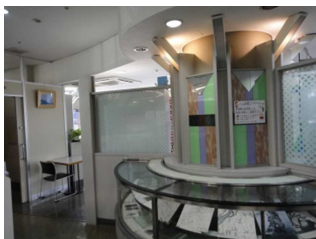
1階 ギャラリー

ホールに隣接した位置にある。ギャラリーの入り口は、文化財の展示ケースで遮られており視認性が悪い。



1階 情報コーナー

玄関と副玄関に面して位置しており、来館者にとって目につきやすい位置に情報コーナーがある。



1階 自販機コーナー

誰でも自由に利用できることから、自習スペースとしての利用も多い。



1階 池

玄関に隣接して水景を設けている。十分にメンテナンスが必要で、外観からみた施設の印象を大きく左右するものとなっている。

その他

- ・築後約25年が経過しているため、トイレや空調といった設備機器についてはリニューアルの時期を迎えている。

■ 4 図書サービスの現状と課題

1) 利用者アンケートによる現状の分析

生涯学習情報センターの管理・運営を受託している公益財団法人守口市文化振興事業団が平成29年9月1日(金)から5日(火)に利用者100人に実施した図書フロアに関するアンケート結果からは、現状の生涯学習情報センターは以下のような特徴があげられる。

● 利用者層

- ・ 利用者は男性が42%、女性が58%と女性の方が利用率が高い。
- ・ 年齢層は40歳代が最多の31%、次いで60歳代の19%と中高年層が利用者の半数の割合を占めている。利用率が最も低いのは20歳代の5%である。

● 施設の利用頻度

- ・ 最も多いのは46%の「2週に1回」であり、それに次いで「1週に1回」の24%となっており、80%の人が定期的に施設を利用していることがわかる。
- ・ 利用目的は「読みたい本を探すため」が最も多く75%の割合となっている。
- ・ 利用目的の少数意見としては「視聴覚コーナーを利用するため」の0.6%があげられており、現在の視聴覚コーナーの利用度の低さがうかがえる。

● 施設への満足度

- ・ 「施設の清潔度」、「スタッフの接遇」、「休館日の設定」、「フロア利用の満足度」はいずれも満足度が73%から92%と極めて高い結果となっている。
- ・ 土日祝の開館時間については満足度が半数を割る42%となっており、平日の開館時間の満足度の64.6%に対し、22.6%低い結果となっている。このことから土日祝についても平日と同様17時以降の利用のニーズが高いことがうかがえる。また平日の開館時間である10時から20時については33%が「ふつう」、2%が「不満」と回答しており、リニューアル後の開館時間の見直しの検討の必要性も考えられる。

● その他利用者意見（改善要望等）について

- ・ 新刊書の充実
- ・ 蔵書検索端末の増設
- ・ 利用履歴が見れるシステム
- ・ 雑誌タイトルの増加
- ・ マンガタイトルの増加
- ・ 閲覧コーナーの座席数の増加
- ・ コーヒーを飲みながら本を読める場所の設置
- ・ 学生だけでなく社会人に対しても開放される自習室の設置

2) 市立図書館化に向けての課題や他市の事例

① 北河内7市の図書館蔵書冊数との比較

北河内7市の面積、人口、人口密度と共に図書館数（中央図書館、分室など市域にいくつかの市立図書館を保有しているか）、蔵書冊数（市内図書館の蔵書数の総計）、図書提供冊数（市民1人あたりに対しての蔵書冊数）は下表のとおりである。

北河内7市の市立図書館との比較（H28年度末参考）

都市	面積 (k m ²)	人口 (人)	人口密度 (人／k m ²)	蔵書冊数 (冊)	図書提供冊数 (冊／人)	図書館数 (館)
守口市 (※1)	12.73	143,976	11,310	164,275	1.14	
守口市 (※2)	12.73	143,976	11,310	347,692	2.41	
門真市	12.28	124,299	10,122	258,350	2.08	2
寝屋川市	24.73	236,758	9,574	528,793	2.23	4+移動
四條畷市	14.87	55,937	3,762	251,590	4.50	2
大東市	18.27	122,227	6,690	476,718	3.90	3
枚方市	105.29	404,007	3,837	1,275,994	3.16	19+移動
交野市	61.78	77,913	1,261	242,260	3.11	4+移動

※1：生涯学習情報センターのリニューアルを行ったのち、単独で公立図書館として運営をしていると想定した場合。

※2：守口文化センターの図書フロア、各コミュニティーセンターの図書フロアの蔵書を市立図書館の蔵書に含めた場合。

面積や人口の条件が最も類似している門真市では、現在分室を構えた2館体制で市立図書館を運営している。図書提供冊数は2.08（冊／人）となっており、守口市が全公共施設の蔵書を公共図書館の蔵書とみなした場合はこれを上回るが、生涯学習情報センター単独では、図書提供冊数や蔵書冊数は北河内7市で最も低い数値となる。

そのため、今後は蔵書数の拡充が課題の一つとなるが、年間図書資料費用や物理的な蔵書スペースの確保についても限度があるため、図書館司書が新規図書資料の選定において質の高い資料を選択することで、図書サービスの質や図書館の利用価値を高めていく。

■ 5 前提条件をふまえた生涯学習情報センターのあり方

1) 新・市立図書館と明確に位置付ける

より多くの市民や幅広い階層の利用拡大に向け、これまでの本市生涯学習情報センターが果たしてきた役割を踏まえつつ、今後は法上の図書館として明確に位置付けた上で、新しい時代にあった市民ニーズにマッチできる生涯学習情報センターの改修とする。

2) 利用者層の拡大

現在は中高年層が施設利用者の割合を多く占めるが、各世代のニーズに合った施設として改修を行うことで、新たな利用者を獲得し、市民にとって利便性の高い施設としうる可能性がある。

また、若者のニーズに合うようにダンスや音楽活動の場を設けたり、無線LANによるモバイル機器の通信環境の整備、さらには図書のサービスにおいても興味・関心の高いテーマの図書を配置することで、主体的に利用したくなるような施設を目指すとともに、いつでも気軽に利用できるように開館時間についても検討していく。

3) 施設設備の更新

築後約25年が経過する中、躯体そのものの損傷などは見られないが、これまで大規模な設備改修は実施されておらず、空調機器をはじめとした施設設備については、リニューアルにあわせた更新を検討する。

4) 市立図書館開設に伴う図書サービスの向上

市立図書館を開設するにあたっては、蔵書数の拡充をはじめとした図書サービスの向上についても検討していく。

■ 6 リニューアル後の収蔵可能冊数

生涯学習情報センターの現況の書架の蔵書可能容量を概算で算出（※１）すると、下記のようなになる。

	総段数(段) (※２)	総冊数(冊) (※３)
児童書・絵本	327	15,315
一般書	2,138	76,670
閉架書庫	1,036	36,260
計	3,501	128,245

同様にリニューアルを行ったのち書架を増設することを前提に、総段数及び総冊数を概算で算出すると、下記のようなになる。

	総段数(段) (※２)	総冊数(冊) (※３)
児童書・絵本	348	17,560
一般書	2,374	88,480
閉架書庫	3,096	108,360
計	5,818	214,400

上記から現況の蔵書冊数とリニューアル後の計画蔵書数を比較すると、全体で 167.2% の蔵書冊数の増加を見込むことができる。

	A 現況総冊数 (冊)	B 計画総冊数 (冊)	B/A 比率 (%)
児童書・絵本	15,315	17,560	114.7
一般書	76,670	88,480	115.4
閉架書庫	36,260	108,360	298.8
計	128,245	214,400	167.2

※１：書架１台あたりの段数及び収蔵書籍のサイズを一定のものに平準化して収蔵可能冊数を算出するため、実際の蔵書冊数とは異なる。

※２：（書架１台あたりの段数）×（書棚の数）

※３：（総段数）×（１段あたりの収蔵可能冊数）

